SPSS(Statistical Package for the Social Science)を使用しているが，これらは医学・医療用ソフトとしてたいへん有益である。そのほかにもすぐれたソフトが市販されているので，専門家の経験を聞き，その指示に従って解析することが重要である。

D 聞き取り調査の方法

質問紙による標本調査については前述したが，ここでは調査法の基本ともいうべき聞き取り調査に焦点をあて，調査時の留意点とその具体的な方法について学習していきたい。

1 アンケートの作成法

調査用のアンケートを作成するときには，次のような基本的な事項に留意しなければならない。

(1) 質問数が多すぎないこと：質問用紙はB4判で2枚以内とする。1回のアンケートでこれ以上の量を聞くことは，実際上むりである。

(2) プレテストを活用する：質問紙ができたらプレテストを行い，質問が正確に伝わるか，全員が特定の回答に集中するようなことはないか，相手を不快にさせないか，などを十分にチェックする。

表 5-a 4段階による「生活の満足度」

「Aの調査」の選択肢	「Bの調査」の選択肢
a. 満足している	ⓐ 大いに満足している
b. ある程度満足している	ⓑ やや満足している
c. あまり満足していない	ⓒ あまり満足していない
d. 満足していない	ⓓ ぜんぜん満足していない

表 5-b 「生活の満足度」の回答結果(%)

「Aの調査」		「Bの検査」	
a	1	ⓐ	1
b	19	ⓑ	15
c	46	ⓒ	52
d	32	ⓓ	23
その他*	2	その他*	9
計	100	計	100

*「その他」はその他の回答または無回答

(3) 評価尺度を十分に考える：「生活の満足度」に関する調査の事例を，**表5**に示した。Aの例では評価尺度(選択肢)が比較的等間隔にとってあるが，B

図 15-a　医療関係者を対象とした調査の一例(1)

入院患者の退院状況調査

平成○年○月実施
○○市衛生局

――― ご協力のお願い ―――

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申しあげます。日ごろは○○市の行政にご協力いただきありがとうございます。

さて，○○市衛生局では，市内での訪問看護の実態と問題点，今後の課題を明らかにするための研究を実施することになりました。この調査はその一環として，病院退院患者の訪問看護のニーズを質的・量的に把握するために行われるものです。調査結果は，市内の訪問指導事業および地域ケアシステムにおけるサービス提供のあり方などを検討する際の基礎資料として活用させていただきます。

つきましては，お忙しいところをまことに恐縮ですが，調査の主旨をご理解のうえ，ご協力くださいますようお願い申しあげます。

――― ご記入にあたって ―――

[回答の方法]
・回答は，とくに質問中に指示のあるものを除き，選択肢に○印をつけていただきます。
・○印の数は，「1つだけ」「いくつでも」というように，質問ごとに異なりますので，ご注意ください。
・回答の流れによっては，飛ばしていただく質問などの指示がありますので，ご注意ください。

[回答結果の取り扱いについて]　この調査の回答結果を，個々の病院名で公表することは絶対にありません。また，この調査の目的以外に使用するなど，皆さまにご迷惑をかけることはありませんのでご安心ください。

[不明な点のお問い合わせ]　この調査の主旨，回答の方法などに関して不明な点のお問い合わせは，お手数でも下記のほうに電話でお願いします。

○○市衛生局　保健部○○課　　[電話番号]×××－×××－××××

――(中略)――

[問12]　おもな介護者のかたの患者からみた続柄として，あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 妻	2. 夫	3. 娘	4. 嫁
5. 息子	6. 家政婦	7. 知人	8. その他(　　)

[問13]　おもな介護者は患者と同居していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 入院前から同居
2. 以前に同居していたことがあるが，入院直前は別居
3. 退院後はじめて同居
4. 同居していない

【在宅ケアへの意向についてうかがいます】

[問14]　患者本人の在宅ケアへの意向は，以下のどれにあたりますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 自宅療養など，在宅ケアを望んでいた
2. 入院・通院など，病院でのケアを望んでいた
3. わからない

の例では両極に焦点をあてた質問となっている。いずれを取るかは調査者の調査目的による。**表 5-b** に回答結果が示されているが，質問の聞き方によって結果が多少異なることに注意してほしい。

(4) 質問紙において，たとえば「よい」「ふつう」「わるい」のように，選択肢中に「ふつう」があると，回答がこれに集中する傾向があり，5 段階で設定すると 3 の項が多くなる傾向がある。これを避けるためには，「ふつう」の項を除くか 4 段階(偶数)評価にするのがよい。

(5) 信頼性・妥当性を検討する：独自に質問紙を作成する場合には，その信頼性と妥当性について必ず検討しなければならない。他調査との比較を確かなものにするためには，権威ある有識者や機関で検討された質問紙を使用するようにする。また，翻訳して用いる場合は，必ず専門家に相談してこ

図 15-b 医療関係者を対象とした調査の一例(2)

[問15] 患者の家族の在宅ケアへの意向は，以下のどれにあたりますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 在宅療養など，在宅ケアを望んでいた
2. 入院・通院など，病院でのケアを望んでいた
3. わからない

[問16] は全員にお答えいただきます。
【退院後の治療と看護についてうかがいます】
[問16] 退院後の治療と介護の必要性について，あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 引き続き治療が必要である ——→Aページにお進みください。
2. 引き続き介護が必要である ——→Bページにお進みください。
3. 引き続き治療・介護とも必要である ——→Cページにお進みください。
4. 当面，治療・介護の必要はない ——→(調査項目は以上で終わりました)

【このページでは引き続き治療が必要な退院患者についてうかがいます。】
[問17] 必要な医療的処置はなんですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 尿管カテーテル	6. 吸引	11. 呼吸補助器
2. 膀胱洗浄	7. バルーン留置	12. 人工肛門
3. 経管栄養	8. 褥瘡処置	13. 失禁処置
4. 気管カテーテル	9. 酸素吸入	14. ガーゼ交換
5. 気管切開	10. 呼吸器	15. その他(具体的に　　)

[問18] 治療・介護の体制について，あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 引き続き当院に通院する	7. 地域の保健婦につなげる
2. 他院に通院する	8. 開業医への連絡
3. 当院から往診を受ける	9. 福祉事務所など福祉関係者につなげる
4. 当院から訪問看護を受ける	10. その他(具体的に　　)
5. 市町村の訪問看護(訪問指導)につなげる	11. とくに考えていない
6. 他院・診療所などの訪問看護につなげる	

◆ 調査項目は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

とばのニュアンスなどを検討してから使用する。

(6) 情報処理に備えた準備をしておく：手集計できるほどの規模のものであれば問題はないが，大規模な調査などでは，アンケート用紙の右欄にコード欄をつけたりして，調査用紙の作成時に情報処理用の準備をしておく。

アンケート調査の実例 ■ アンケート調査の実例を知ってもらうために，医療関係者を対象とした調査の例として「入院患者の退院状況」と，一般市民を対象とした調査の一例として「老人の健康と生活に関する調査」の一部を図16に示した。

図 16-a　一般市民を対象とした調査の一例(1)

○○市老人の健康と生活に関する調査表(1988年1月)
——老人・家族へのアンケート調査——

□はコンピュータ用のものです。
これに記入の必要はありません。

1 2 3 □□ □
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

[問1]　本人は現在どこにおられますか。(2は①②のどちらかに○印を)

1. 自宅
2. 子どもの家——① ○○市内
② 市外
3. 入院
4. 特別養護老人ホーム
5. 養護老人ホーム
6. 軽費老人ホーム
7. その他

[問2]　この調査におもに答えられる方は，どなたですか。　問1

1. 本人
2. 配偶者　24 □
3. 配偶者を除く家族
4. 親族　25 □
5. 民生委員
6. 家庭奉仕員(ホームヘルパー)　問2
7. 近所の人，友人，ボランティア
8. その他　26 □

[問3]　本人の生年月日，年齢(1月1日現在)

生年月日	1.明治 2.大正 3.昭和　年　月　日	満　歳

27 □ 年号　28 29 □□ 年　30 31 □□ 月　32 33 □□ 日　34 35 □□ 年齢

[問4]　性別

1. 男　2. 女　36 □

[問5]　○○市に何年住んでいますか。(1つ○印)　37 □

1. 1年未満	2. 1年～5年未満	3. 5年～10年未満
4. 10年～15年未満	5. 15年～20年未満	6. 20年～30年未満
7. 30年以上		

[問6]　○○市に永住されることについていかがですか。(各行で1つずつ○印)

永住する予定	1. あり	2. なし	3. わからない	38 □
永住の希望(本人)	1. あり	2. なし	3. どちらともいえない	39 □

[問7]　将来あなたが動けなくなったら，どこでどのように暮らすつもりですか。(1つ○印)

1. 老夫婦で，自宅で
2. 1人で親族の援助を受けて，自宅で
3. 1人で専門家やボランティアの援助を受けて，自宅で
4. 子どもと同居
5. 老人ホーム
6. その他(　　)

40 □

2　聞き取り調査の具体的な方法

聞き取り調査は，標本として抽出された被調査者に，だれが，どのようなかたちで接し，まただれが記入するかによって次のように分けられる。

これらのいずれの方法においても，まず対象者個人の同意を得ることが必要であり，そのプライバシー保持には十分に留意し，回収した質問紙は密封ないし施錠して保管する。また，エイズや薬の薬効試験など特別な調査については，各施設に設置されている倫理委員会などに申請し，検討と了承を得てから実施することが重要である。

図 16-b　一般市民を対象とした調査の一例(2)

[問8]　同居している家族について記入してください。(続柄は妻・夫・長男などと記入)

続柄	性別	年齢	就労
老人本人	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない
	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない
	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない
	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない
	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない
	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない
	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない
	1.男　2.女	歳	1.している　2.していない

1. 独居
2. 夫婦
3. 2世代(子どもと)
4. 2世代(親と)
5. 3世代
6. 兄弟姉妹
7. その他

41 □

ほか(　　)人　　合計(　　)人　　人数 42 43 □□

[問9]　本人の問題と関連して，健康や生活のことで困ることがありますか。あれば，現在と将来についてそれぞれ3つ以内で自由に書いてください。

		現在	将来
現在	1. 2. 3.	44 □ 45 □ 46 □	54 □ 55 □ 56 □
将来	1. 2. 3.	47 □ 48 □ 49 □ 50 □ 51 □ 52 □ 53 □	57 □ 58 □ 59 □ 60 □ 61 □ 62 □ 63 □

[問10]　現在お住まいの住宅について答えてください。(各行に1つ○印)

住宅所有	1.本人・配偶者の自宅 2.子どもの自宅 3.公営住宅 4.借家 5.その他	64 □
住宅形態	1.一戸建て 2.団地・マンション 3.社宅・官舎 4.アパート 5.その他	65 □
ふろ	1.あり　2.なし	66 □

[問11]　本人が生活するためのおもな収入源はどれですか。(1つ○印)

1.就労　2.年金　3.貯金　4.子どもから　5.不動産　6.生活保護　7.その他　67 □

[問12]　本人にとって今の経済生活をどのように感じますか。(本人が感じていることを1つ)

1.余裕がある　2.ふつう　3.やや苦しい　4.苦しい　5.わからない　68 □

1 面接調査法

調査員が直接本人に会って質問し，調査員が質問用紙に記入していく方法である。本人であることを確認することができ，また質疑応答ができるので，よく理解したうえでの回答が得られる。そのため，よくわからないとか，めんどうだから適当に答えておこうといったことが少なく，回収率も高い。

反面，標本は無作為抽出で選ばれるため住所が分散するほか，直接面会して話をすることになるので，1人で1日15～20人程度しかできない。そのため，労力も費用もかかり，不在のときは再度訪問(追跡訪問)することが必要となる。

調査員と質問者の間でプライバシーなどに関して十分な信頼関係が前提となる。電話調査もその一種と考えられるが，あらかじめ手紙などで協力の賛否を

図 16-c　一般市民を対象とした調査の一例(3)

[問13]　本人が最も長くついていた職業について答えてください。(各行1つ○印)

勤め・自営	1.常勤　2.自営業主　3.家族従業員　4.パート　5.無職	69
従業員数	1.10人未満　2.10～30人未満　3.30～100人未満 4.100～1,000人未満　5.1,000人以上　6.官公庁　7.わからない	70
仕事の種類	1.専門的・技術的職業　2.管理的職業　3.事務　4.商売 5.農業・漁業　6.採鉱・採石　7.運輸・通信　8.技術工・生産工 9.保安職　10.サービス業　11.分類不能の職業　12.家事	71

[問14]　家庭でのおもな役割はなんですか。(いくつでも○印)

1.留守番　2.孫の世話　3.縫い物・つくろい物　4.炊事　5.掃除・洗濯 6.買い物　7.畑などの仕事　8.家族の看護　9.家計の支持(収入) 10.草木の手入れ　11.町会の集まりなどへの出席　12.その他　13.なし	72 78 73 79 74 80 75 81 76 82 77 83 なし 84

[問15]　本人が最近，地域の人たちと助け合うような活動や仕事をしたことがありますか。次のうちどのようなことですか。(いくつでも○印)

1.近隣の掃除や草取りなど　2.子どもの世話　3.お年寄りの世話 4.ひとり暮らしの老人の話し相手　5.病人の世話　6.家事の手伝い 7.心配ごとの相談　8.町内会などの世話役　9.冠婚葬祭のときの世話 10.その他(　　)　11.なし	85 90 86 91 87 92 88 93 89 94 なし 95

(中略)

[問25]　移動の方法は次のうちのどれですか。(各行1つ○印)

本人	屋内	1.歩行　2.つえ　3.伝い歩き　4.はう　5.車いす　6.その他	172
	屋外	1.歩行　2.つえ　3.車いす　4.その他	173
介護の必要		1.見まもり　2.人の支えが必要　3.車いす　4.その他　5.不要	174

[問26]　排泄(尿・便)の始末はいかがですか。(1つに○印，3～4の方は1つに○印)

1. ふつうにできる(トイレ・便器を使い，もらすことはない)	175
2. ときどき間に合わないことがある(尿や便が出そうなことはわかる)	
3. ときどき気がつかなくてもらすことがある(おむつを使うことがある) ①尿　②大便　③尿と大便	176
4. もらすことのほうが多い(①夜間のみおむつ　②いつもおむつ)	

たずね，指定された時刻に電話をすることが重要で，日本では一般的にはこの調査は最善の方法とはいえない。

2 配票調査法

被調査者に調査票を配布し，記入されたものを後日再訪問して回収する方法である。これによると追跡訪問の数も少なくなり，回収率も高くなる。したがって費用も労力も少なくてすみ，面接調査法よりも多くの標本を回収することができる。

図 16-d 一般市民を対象とした調査の一例(4)

[問27] 本人の日常動作の程度，またその介護・お世話で困難なことがありますか。介護している方がお答えください。(各行の自立度・介護困難の両方に1つずつ○印)

行動	自立度	介護困難 1	介護困難 2	自立度	介護困難
1. 立つこと	1.できる 2.介助すればできる 3.できない	なし	あり	177	188
2. 更衣	1.できる 2.介助すればできる 3.できない	なし	あり	178	189
3. 食事	1.できる 2.介助すればできる 3.できない	なし	あり	179	190
4. 排泄	1.できる 2.介助すればできる 3.できない	なし	あり	180	191
5. 入浴	1.できる 2.介助すればできる 3.できない	なし	あり	181	192
6. 身体をふく	1.できる 2.介助すればできる 3.できない	なし	あり	182	193
7. 視力	1.ふつう 2.見えにくい 3.あまり・ほとんど見えない(眼鏡を使用しても)	なし	あり	183	194
8. 聴力	1.ふつう 2.聞こえにくい 3.あまり・ほとんど聞こえない(補聴器を使用しても)	なし	あり	184	195
9. 会話	1.ふつう 2.ときどき通じない 3.あまり・ほとんどできない	なし	あり	185	196
10. 身のまわりの整理	1.ふつう 2.介助すればできる 3.あまり・ほとんどできない	なし	あり	186	197
11. 服薬	1.ふつう 2.介助すればできる 3.あまり・ほとんどできない	なし	あり	187	198

――(中略)――

[問29] 本人の身のまわりのお世話についていかがですか。介護している方がお答えください。(各行で1つ○印)

介護者の有無	1.不要 2.必要だが，いない 3.介護者がいる	209
おもな介護者(1つだけ)	1.配偶者 2.嫁 3.娘 4.息子 5.むこ 6.孫 7.親族 8.ホームヘルパー 9.民生委員 10.近所の人，友人，ボランティア	210 211
介護者の病気	1.なし 2.あり( )	212
介護者の症状	1.なし 2.あり( )	213
介護者の職業	1.なし 2.パート 3.常勤 4.商売 5.その他	

反面，本人が記入したかどうかが不明であり，本人が回答したとしても，家族などの他者の影響が予想される。また，質疑応答がないため理解が十分でなかったり，誤解して回答されたりすることも少なくない。そのため，一般に不明確な回答や無回答の項目が多くなりがちである。

3 郵送法

調査票の配布も回収も郵送によって行う方法である。労力は少なくてすむが，調査数によっては多大の郵送料を要する。また，広範囲の地域を対象に調査を行うことができるが，一般に回収率は20〜30％とよくない。

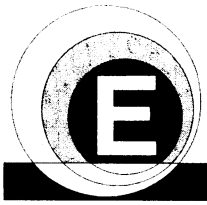
この方法では，本人が記入しているかどうかが不明であり，回収までの時間がかなり長くなることを覚悟しなければならない。

ファクシミリによる調査もこの一種と考えられる。

4 集合調査法

被調査者を一定の会場に集めて説明し，本人に記入してもらう方法である。質疑応答もでき，よく理解して回答してもらうことができる。

費用・労力とも少なくてすむが，一般に出席率はわるく，周囲の人たちの発言や態度に影響されるという欠点がある。



E 調査終了後の検討

調査が終了した時点で最も重要なことは，その調査が当初の目的に即してどの程度達成されているかということである。予備調査を行い，かなりの時間を費やして実施したが，回収されたアンケート用紙をみると空欄や無回答が多く，がっかりするようなことも少なくない。そこで，本調査を終了し解析する場合にまずしなければならないことは，① 回収率の確認，② 未記入の確認，③ 未回収についての考察である。回収率が高いほどよいが，調査結果の妥当性を検討するためにも，未回収の状況については考察しておく必要がある。

未回収者の問題■ まず未回収者の特性に注目し，母集団の年齢構成・性や地域などからみて，回収率に不均等な分布や偏りがないかどうかを検討する。次に，未回収の理由について考察する。未回収や無回答のなかに，調査拒否がどのくらい含まれているかに着目することである。不在などによる未回収者の意見は，回答者のそれとの間に差がないことが多いのに対して，積極的な調査拒否は結果に偏りを

生じさせ，結果の考察において重要な意味をもってくるのである。

算出された平均値や構成割合などの数字がどの程度の妥当性をもつか，たとえば真の平均は調査結果よりも高い(あるいは低い)ことが予想されるかどうかについて，このように回収率や未回収の状況から考察することが重要である。

なお，面接調査の場合は，このような不明瞭さを避けるために調査員の氏名を明記し，その場で状況を検討して記録しておくようにする。調査拒否の場合はその理由を記入し，不在のときは不在と明記しておく。

ゼミナール　復習と課題

1) 新聞などで発表される世論調査をよくみて，そこで用いられている調査法についてまとめてみよう。
2) 迷惑な調査とはどのようなものであるかを考えてみよう。